中期目標の達成状況に関する評価結果

（中期目標期間終了時評価）

佐賀大学

令和５年３月

大学改革支援・学位授与機構

目　　次

法人の特徴・・・

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

佐賀大学は、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学として、地域を志向した社会貢献・教育・研究を推進することで、地域活性化の中核的拠点を目指す。また、総合大学の強みを生かし、グローバルな視野により社会の発展に貢献できる学生を育成・輩出し、地域社会を先導する。

第三期中期目標期間は、佐賀大学改革プランを基盤として、以下の取組を基本的な目標として着実に実行する。

1　地域から求められる大学
　教員と職員の知恵を集結させ、さらに、地域との協働により、親しまれ求められる佐賀の大学を創成する。
2　地域の知的拠点
　有明海から玄海灘へと続く大地において、文化・伝統・自然の特徴を活かし、教養・芸術・医療・エネルギー・食・生命・環境を基盤とした「知」の拠点として地域の発展に貢献する。
3　国際的な視野で地域でも活躍できる学生の輩出
　学生の能動的かつ主体的な学修を育み、幅広い教養教育と質の高い専門教育により、国際的な視野で地域社会で多様に活躍できる学生を育成する。
4　国際から地域に還元した研究
　地域の課題解決のために、分野を超えた横断的な研究に積極的に取り組む。また、国際的な研究を地域の研究に還元する。

1．現況
①大学名　国立大学法人佐賀大学
②所在地　本庄キャンパス（本部）佐賀県佐賀市本庄町１
　　鍋島キャンパス　　佐賀県佐賀市鍋島５－１－１
　　有田キャンパス　　佐賀県西松浦郡有田町大野乙 2441－１
③役員の状況
　学長名　宮﨑　耕治（平成 27 年 10 月 1 日～令和元年９月 30 日）
　学長名　兒玉　浩明（令和元年 10 月 1 日～令和５年９月 30 日）
　理事数６人（非常勤２人を含む）
　監事数２人（非常勤１人を含む）
④学部等の構成
・学部
　教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部
・研究科
　学校教育学研究科（専門職学位課程）
　地域デザイン研究科（修士課程）
　医学系研究科（一貫制博士課程）
　先進健康科学研究科（修士課程）
　理工学研究科（博士前期課程・博士後期課程）
　農学研究科（修士課程）
・共同利用・共同研究拠点
　海洋エネルギー研究センター※
　※は、共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

⑤学生数及び教職員数（令和３年５月１日現在）

・学部学生数（留学生数は内数）　　単位：人

学部名	学生数（留学生数）
教育学部	510　(0)
芸術地域デザイン学部	486　(2)
経済学部	1,137　(9)
医学部	883　(0)
理工学部	2,150（10）
農学部	631　(2)
計	5,797（23）

・大学院学生数（留学生数は内数）　　単位：人

学部名	学生数（留学生数）
学校教育学研究科（専門職学位課程）	40　(0)
地域デザイン研究科（修士課程）	44（24）
医学系研究科（一貫制博士課程）	104　(2)
先進健康科学研究科（修士課程）	128　(5)
理工学研究科（博士前期課程）	162（18）
理工学研究科（博士後期課程）	9　(4)
農学研究科（修士課程）	66　(5)
計	553（58）

・教員数 654 人、職員数 1,336　人

２．沿革と構成

本学は、平成 15 年 10 月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合して新たに佐賀大学として発足し、平成 16 年４月、国立大学法人佐賀大学として再出発した。前身である旧佐賀大学は、昭和 24 年に、文理学部と教育学部からなる新制佐賀大学として設置された。その後、昭和 30 年には農学部が、昭和 41 年には経済学部及び理工学部（文理学部を改組）がそれぞれ設置され、統合前には、文化教育学部（平成８年に教育学部を改組）、経済学部、理工学部及び農学部の４学部・４研究科で構成されていた。一方、旧佐賀医科大学は、政府の医師不足解消及び無医大県解消政策の一環として昭和 51 年に医学科のみの単科大学として発足した。平成５年には看護学科が設置され、１学部・１研究科で構成されていた。現在の佐賀大学は、旧佐賀大学を継承した本庄キャンパス、医学部・医学部附属病院が所在する鍋島キャンパス及び佐賀県立有田窯業大学校を移管して平成 29 年４月に開設した有田キャンパスの３キャンパスからなり、学部学生約 6,000 人、大学院学生約 800 人が勉学に励んでいる。また、佐賀市内に教育学部附属の４学校園があり、合計約 1,200 人の園児・児童・生徒が学んでいる。大学の運営・教育研究を支える役員・教職員数は約 2,000 人である。平成 22 年度に、工学系研究科及び農学研究科をそれぞれ改組するとともに、平成 23 年度には、全学教育機構及び国際交流推進センターを設置した。

平成 24 年度に、海浜台地生物環境研究センターと農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターを統合再編した農学部附属アグリ創生教育研究センターを新たに創設した。平成 25 年度は、入学定員の見直しを伴う経済学部の改組を実施するとともに、旧佐賀大学と旧佐賀医科大学との統合 10 周年を迎える記念事業として「佐賀大学美術館」を設置し、平成 25 年 10 月に開館した。第３期中期目標期間の開始年度である平成 28 年４月から、文化教育学部の見直しにより、教員養成機能に特化した「教育学部」及び佐賀県との協働による窯業の振興も視野に入れた教育課程を含む「芸術地域デザイン学部」を設置した。また、同時に、教育学研究科を改組し「学校教育学研究科（教職大学院）」及び教育学研究科と経済学研究科

を融合した「地域デザイン研究科」を設置した。平成 29 年４月に、本学のバーチャル型研究組織であった肥前セラミック研究所を、教育（窯業人材の養成）と研究における学内共同教育研究施設として発展させ、肥前セラミック研究センターを設置した。また、本学の研究や産学連携の機能強化を図るため、平成 29 年 10 月に産学・地域連携機構を改組し、リージョナル・イノベーションセンターを設置した。平成 30 年４月には、組織改革の一環として教員組織と教育組織を分離し、本学教員が一元的に所属する教育研究院を設置して３学域７学系等を置いた。平成 31 年４月には、社会のニーズに対応した理工系人材育成機能の強化の一環として、地域を活性化し、地方創生をけん引する人材を育成するために理工学部及び農学部を各々１学科に再編するとともに、理工系の研究科を理工学研究科、農学研究科及び先進健康科学研究科に再編し、学生の受入れを開始した。

令和３年４月には、理工学分野の特色・強みを活かした教育研究を実施し、博士後期課程における高度な研究活動を通じて培われる問題認識力、課題分析力と判断力、企画立案力を活用して、現実の課題解決を行い、それを学術及び社会にも反映できる高度実践的リーダーを養成するため、工学系研究科（博士後期課程）システム創成科学専攻を改組し、理工学研究科（博士後期課程）理工学専攻に４つのコースを設置し、学生の受入れを開始した。

３．理念

本学は、佐賀県内で唯一の国立大学として、国立大学法人法第１条に示す国立大学の設置目的「大学の教育研究に対する国民の要請にこたえるとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図る」の使命を果たすため、本学の基本理念として、次のように佐賀大学憲章を宣言している。

【佐賀大学憲章】

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します。

・[魅力ある大学]
　目的をもって活き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます。
・[創造と継承]
　自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます。
・[教育先導大学]
　高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします。
・[研究の推進]
　学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します。
・[社会貢献]
　教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます。
・[国際貢献]
　アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します。
・[検証と改善]
　不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします。

４．特徴

１）佐賀の地域において高等教育を担う総合大学

本学は、６学部・７研究科を備えた総合大学として、県内はもとより、隣接する福岡県、長崎県など九州各地からの入学生が大半（93.5%）を占め、地域の学生に対して幅広い高等教育を提供している。また、佐賀県内の５大学及び放送大学佐賀学習センターと共に設立した「大学コンソーシアム佐賀」により、県内の高等教育の普及を図っている。

２）研究教育拠点を広く地域に展開

海洋温度差発電など海洋エネルギーの活用を研究し、平成 22 年度から共同利用・共同研究拠点の認定を受けた海洋エネルギー研究センター（本庄キャンパス・伊万里市・沖縄県島尻郡久米島町)、「佐賀の大学」を象徴する地域学歴史文化研究センター（本庄キャンパス)、地域医療の教育研究拠点として国立大学で初めての医学部附属地域医療科学教育研究センター（鍋島キャンパス)、中北部九州における農業に関する研究及び農医文理融合型の新領域研究をプロジェクト型研究として推進する農学部附属アグリ創生教育研究センター（佐賀市・唐津市）を持ち、地域に密着した研究教育を進めている。また、シンクロトロン光応用研究センターが、鳥栖市に設置されている佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターを中心に、九州地区の大学など諸機関と連携して研究教育を進めている。さらに、佐賀県との協働により佐賀県立有田窯業大学校を移管し、平成 29 年４月に有田キャンパスを開設するとともに、肥前セラミック研究センターを設置し、窯業人材育成に係る教育研究の地（知）の拠点としての活動を開始した。

３）地域社会との連携

佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会及び本学が多様な分野で連携協力し､佐賀県の発展と人材育成に寄与することを目的とする｢佐賀県における産学官包括連携協定」を結び、地域社会との連携協力事業を実施している。また、産学・地域連携機構を、平成 29 年 10 月にリサーチ・アドミニストレーター（URA）を中核としたリージョナル・イノベーションセンターへと改組し、本学の創出した知的財産の社会への還元を推進している。さらに、平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」(文部科学省）に採択された「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」では、西九州大学と協働して、地域を志向した教育研究活動を推進している。この成果は、平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業)」(文部科学省）の採択に結びついた。また、地域志向科目の全学部必修化として、全てのインターフェースプログラムにおいて地域のテーマを取り上げることで、学生が地域で学ぶことを実施した。さらに、平成 29 年度からは芸術地域デザイン学部が有田キャンパスにて講義を開始するとともに、有田キャンパスにて英語によるセラミックス関連科目を履修する SPACE-ARITA コースを開講し、オランダやドイツからの留学生が受講した。医学部附属病院では、教育実習及び基幹型臨床研修病院としての機能に加えて、１日平均 928 人の外来患者、461 人の入院患者を診療している。また、高度救命救急センターを中心とした救急医療、小児救急電話相談、ハートセンター及び脳血管センターの 24 時間ホットライン、地域に密着した感染症の医療機関間情報ネットワーク、佐賀在宅・緩和医療ネットワーク、都道府県がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院など、佐賀県の中核病院としての役割を果たしている。教育学部では、佐賀県教育委員会と連携・協力協定を結び、教育開発や教員研修など、県内の初等・中等教育の質の向上に取り組んでいる。

４）アジアの知的拠点

本学は、全学生の 1.6%に相当する 134 人の留学生が在学し、全南大学校、カセサート大学などアジアを中心として 108 校と大学・学部間等で学術交流協定を締結しており、 歴史的・地理的特性を活かし、アジアの知的拠点として日本・アジアの視点から国際社会への貢献を目指している。

［個性の伸長に向けた取組（★）］

○　地域志向など複眼的思考を培うことを目指した「副専攻教育プログラム」を開始した。プログラムは、本学の教育研究分野の多様性を反映した「プログラミング・データサイエンス」、「デジタルコンテンツ」、「芸術と社会」、「実践栽培」、「歴史文化」及び「英語コミュニケーション」という６つの「サブスペシャルティコース」（４科目８単位構成）を中核とした構成とした。
（関連する中期計画 1-1-1-1）

○　ラーニング・ポートフォリオ等を搭載する「ポートフォリオ学習支援統合システム」を学修指導の重要なツールと位置づけ、機能の充実及び活用の促進を図った。学士課程教育においては、学修成果の可視化機能の充実を図り、チューター指導等の学修指導場面で活用し、博士課程、修士課程においては、研究指導記録機能を拡充した。また、学生からの大学への要望集約などにも活用した。
（関連する中期計画 1-1-1-3、1-1-2-3、1-2-2-2、1-3-1-1、1-3-1-2）

○　大学院レベルにおいても汎用的知識・技能の習得が必要であることから、分野融合型の大学院教養教育プログラムとして「情報セキュリティ特論」、「学術英語特論」、「ダイバーシティ・人権教育特論」、「研究・職業倫理特論」、「データサイエンス特論」、「キャリアデザイン特論」、「多文化共生理解」及び「日本語・日本文化理解」を、学校教育学研究科（教職大学院）を除く全研究科を対象に開講した。
（関連する中期計画 1-1-2-2）

○　従来の試験方法では測れない能力や特性を、デジタル技術を用いて評価することを目指し、「佐賀大学版 CBT（Computer Based Testing）」を開発した。これまで、「基礎学力・学習力テスト」、「思考力・判断力等を問うテスト」及び「英語技能テスト」を３学部の入試において実施してきた。2021 年度入試より、全学部で導入した。（◆）
（関連する中期計画 1-4-1-1）

○　全学部の全ての入試区分において、「確かな学力」である学力の３要素を多面的・総合的に評価する入試制度を導入し、全学的な入試改革を達成した。一般入試における主体性等評価の導入は、多数の受験者数に加え短い評価期間という現実的な課題を解決する必要がある。そこで、合格ライン付近の受験者層に限定した選考方法（特色加点制度）を開発し、2019 年度入試より理工学部と農学部、2021 年度より教育学部と芸術地域デザイン学部の入試で導入した。また、これを効率的に実施するために、河合塾と「電子書類採点システム」を共同開発し、導入した。（◆）
（関連する中期計画 1-4-1-1）

○　高等学校教育と大学教育との円滑な接続を目指した、継続・育成型高大連携カリキュラム「教師へのとびら」、「科学へのとびら」、「医療人へのとびら」、「社会へのとびら」、「アートへのとびら」を開講した。３年間のコース修了者は、それぞれの分野の学部へ進学するなど、大きな成果を挙げている。（◆）
（関連する中期計画 1-4-1-2）

○　インセンティブの充実や研究評価の可視化を通じて研究の活性化を図ることを目的として、2018 年度に４人を研究功績者として表彰するとともに、「エスタブリッシュド・フェロー」制度を創設し、６人の研究者に対して第１期の表彰を行った。
（関連する中期計画 2-1-1-1）

○　研究活動の活性化を目指して、URA を置き、研究プロジェクト支援、共同研究支援、外部資金獲得支援などを行った。
（関連する中期計画 2-1-1-2、2-2-1-2、2-2-2-1、2-2-3-2、3-1-2-1）

○　本学の強み・特色を生かした研究プロジェクトとして、農水圏プロジェクトを設置し、地域の農水圏生物生産・利用技術等の高度化を目指した研究を開始した。特に、高オレイン酸大豆を品種登録し、佐賀県及び JA 佐賀と協力して生産普及を行った。また、佐賀の主要産業であるノリについて、そのゲノム解析や品質評価手法の開発を行った。
（関連する中期計画 2-1-2-1、2-2-1-2）

○　本学の特色あるセンターである地域学歴史文化研究センターは、「小城藩日誌データベース」の整備拡充とともに、「小城鍋島文庫」に関する小城市との共同研究・協力事業を継続した。「小城藩日誌データベース」は、優れた目録・書誌作りの研究を顕彰する「ゲスナー賞」の「デジタルによる知の組織化部門」銀賞を受賞した。
（関連する中期計画 2-1-2-2）

○　地域の産業である窯業の振興と本学の強みである美術工芸分野の伸長を目指し、芸術地域デザイン学部を設置した。また、佐賀県より佐賀県立有田窯業大学校の譲渡を受け、有田キャンパスとして位置付けた。2017 年度からは、芸術地域デザイン学部の有田での教育を開始するとともに、肥前セラミック研究センターを設置し、地域との連携事業を推進した。（◆）
（関連する中期計画 2-2-1-2、3-1-1-1）

○　共同利用・共同研究拠点である海洋エネルギー研究センターのこれまでの実績を踏まえ、「佐賀県再生エネルギー等先進県実現化構想」に基づき、「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム」を設立し、地域産業への貢献や人材育成を開始した。
（関連する中期計画 2-2-2-1）

○　民間英語試験の導入、ネイティブスピーカーによる授業などの英語教育の充実とともに、留学支援のための佐賀大学短期海外研修プログラム（SUSAP）などの積極的留学支援を行った。また、日本人学生と留学生との交流を目指した「カルチュラル・エクスチェンジ・ラウンジ」を継続的に実施した。これらの成果として、海外派遣学生は年平均 252 人と第２期の平均を大きく上回った。
（関連する中期計画 4-1-1-3）

［戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）］

○　大学入試改革で求められる多面的・総合的な評価の実現に向け、従来の手法にとらわれない新しい評価方法や仕組みを導入することで抜本的な入試改革を実施するとともに、高大連携活動の在り方の見直しを含めた一体改革の実現により、個別大学における入試改革モデルを提示する取組。
（関連する中期計画 1-4-1-1、1-4-1-2）

○　我国有数のやきもの（陶磁器）産地である佐賀の地域文化を基盤とした「やきものイノベーション」創出のため、地域の中核的研究拠点となる「肥前セラミック研究センター」を、芸術地域デザイン学部・工学系研究科の協働により設置し、①自治体、地元陶磁器関連企業等との協働・連携による研究と産業創出の推進、②地方創生、国際化等に対応する人材の育成、③国際的学術拠点の整備を図る。
（関連する中期計画 3-1-1-1）

評価結果

≪概要≫

第３期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、佐賀大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目） 中期目標（中項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【５】特筆すべき実績を上げている	【４】優れた実績を上げている	【３】達成している	【２】十分に達成しているとはいえない	【１】達成していない
Ⅰ　教育に関する目標	【４】上回る成果が得られている					
１　教育内容及び教育の成果等に関する目標	【３】達成している			2		
２　教育の実施体制等に関する目標	【３】達成している		1	2		
３　学生への支援に関する目標	【４】上回る成果が得られている		1			
４　入学者選抜に関する目標	【４】上回る成果が得られている		1			
Ⅱ　研究に関する目標	【２】おおむね達成している					
１　研究水準及び研究の成果等に関する目標	【３】達成している			2		
２　研究実施体制等に関する目標	【２】おおむね達成している			2	1	
Ⅲ　社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【２】おおむね達成している					
	なし				2	
Ⅳ　その他の目標	【３】達成している					
１　グローバル化に関する目標	【３】達成している			2		

※　大項目「Ⅰ　教育に関する目標」及び「Ⅱ　研究に関する目標」においては、４年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

≪本文≫

Ⅰ　教育に関する目標（大項目１）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）４項目のうち、２項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、２項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 1-1）

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 1-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学士課程教育の内容及び成果等に関する目標
【01】学士教育課程の質的転換により，豊かな教養と専門分野の学識を体系的に身につけ，複眼的思考を培い，主体的に学び行動し，地域社会などで多様に活躍できる学生を育成する。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　アクティブ・ラーニングの推進
アクティブ・ラーニングを教育手法に基づいて５つのカテゴリーに分類し、全学教員の認識を統一している。令和元年度開講授業科目のうち、アクティブ・ラーニングを導入している科目は全体の 99.76%に至り、能動的な学生の学びに結びついている。（中期計画 1-1-1-2）
○　ラーニング・ポートフォリオによる学修成果の可視化
学生自らが自己の学修成果を証明するための仕組みとして、ラーニング・ポートフォリオによる学修成果の可視化を進めたことで、学生自身の成長実感を通じた主体的な科目選</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">択を支援する環境を整えている。また、学生が自身の学修成果を証明して卒業申請を行う卒業申請制度の構築を進めている。（中期計画 1-1-1-3）</td></tr>
<tr><td>小項目 1-1-2</td><td colspan="2">判定</td><td>判断理由</td></tr>
<tr><td rowspan="3">大学院課程教育の内容及び成果等に関する目標
【02】学部・大学院統合型や分野融合型の教育プログラムを編成し，幅広く深い学識を涵養するとともに，教育研究指導を充実して，高度専門職業人を育成する。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　学部・大学院統合型教育の実施
平成 30 年度から学部・大学院統合型教育「大学院先行履修制度」を実施し、本制度を利用して研究科での学修に早期に開始することにより、進学後の教育研究活動の充実を図っている。科目数は平成 30 年度 60 科目（開講科目中 41.0%）、令和元年度 92 科目（同 51.1%）となっている。（中期計画 1-1-2-1）
○　大学院教養教育プログラムの導入
大学院における汎用的知識・技能を教授する分野融合型の大学院教養教育プログラムを総合大学の特色を生かして多様な専門領域にわたって開設し、学校教育学研究科以外の全研究科において必修または選択必修としている。令和元年度の単位取得者数は、延べ 935 名（単位取得率 97.1%）であり、プログラムを構成する科目についても随時見直しを行っている。（中期計画 1-1-2-2）</td></tr>
</table>

（２）教育の実施体制等に関する目標（中項目 1-2）

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、１項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、２項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
教職員の配置に関する目標 【03】教員組織の見直しにより，学士課程・大学院課程の教育目的に即した組織的な教学マネジメント体制を構築する。	【４】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「IR データを活用した教育貢献度指標の導入」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	≪特記事項≫		
	（優れた点） ○　IR データを活用した教育貢献度指標の導入 IR データを活用して教育貢献度指標を定義し、教員個々の教育面の評価を行っている。例えば授業担当時間数を主とした教育貢献度指標を定義し、教員一人一人の授業担当の評価を通じて、貢献度の高い上位 60 人程度に給与でのインセンティブを付与する等、現状把握と改善点を明確にし、教育面だけではなく人事面などの施策に活かしている。（中期計画 1-2-1-1） （特色ある点） ○　教学マネジメント体制の進展 教学マネジメント体制の確立に向けて、教育の質保証体制を大学レベル、学部学科レベル、教員レベルの３階層に区分し、責任部局を明確化するとともに、各階層での質保証体制に関わる規程等を平成 30 年度に整備している。 教育課程の分析や PDCA サイクルの管理体制を充実させるために、各教育課程の質保証サイクルを統括する教育コーディネーターを配置し、全部局で組織的な教育活動の点検・改善を開始している。（中期計画 1-2-1-1）		

<table>
<tr><th>小項目 1-2-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育環境の整備に関する目標
【04】目的を持って主体的に学び行動する学生中心の大学づくりの観点から，教育環境を充実させる。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　新型コロナウイルス感染症下の教育
新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学修機会を確保するため、遠隔授業と対面授業を同時に行うハイフレックス型授業の導入や VR を活用した実習の仕組みを開発するなどの取組を行っている。</td></tr>
<tr><th>小項目 1-2-3</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育の質の改善のためのシステムに関する目標
【05】組織的教学マネジメント体制を強化し，主体的に学び行動する学生を育成するための教育の質的転換を実質化する。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　ティーチング・ポートフォリオの学内への普及
標準版ティーチング・ポートフォリオを基に、教育の責任・理念・方法に焦点を絞った簡易版ティーチング・ポートフォリオを開発し、ワークショップを通じて定期的な更新を図っている。その結果、簡易版の作成・更新率は 100%となっている。（中期計画 1-2-3-2）</td></tr>
</table>

（３）学生への支援に関する目標（中項目 1-3）

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
学生への支援に関する目標 【06】学修支援・生活支援・就職支援機能を充実するとともに，特別な支援を必要とする学生への取組を強化する。	【４】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「就職活動支援による就職率の好業績」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	≪特記事項≫		
	（優れた点） ○　就職活動支援による就職率の好業績 キャリアガイダンスを充実させるとともに、正課外における就職活動支援策を強化する継続的な取組によって、平成 28 年度から令和元年度までの学部と大学院を合わせた平均就職率は 98.9%を維持しており、第２期中期目標期間の学部と大学院を合わせた平均就職率の 96.5%を上回っている。なお、令和元年度の学部の就職率 99.6%は過去最高となっている。（中期計画 1-3-1-4） （特色ある点） ○　学生支援の強化 個別支援シートや出席管理システムのデータから、支援が必要な学生をスクリーニングし、組織的な対応をしている。また、学生支援室やキャンパスソーシャルワーカーによる学生相談・カウンセリングにより学生の生活支援や社会活動支援などを充実させるとともに、学生へのメンタルヘルスケアの強化に取り組み、休学や退学の防止に効果をあげている。（中期計画 1-3-1-3）		

（４）入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

<table>
<tr><th>小項目 1-4-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">入学者選抜に関する目標【07】アドミッション・ポリシーに基づき，「確かな学力」を多面的・総合的に評価・判定する方法を導入し，全学的な入試改革を実現する。</td><td>【４】</td><td>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
・　また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「佐賀大学版 CBT の開発」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　佐賀大学版 CBT の開発
従来の試験方法では測れない能力や適性等を測るため佐賀大学版 CBT（Computer Based Testing）を開発・導入している。本取組は日本経済新聞（全国版）にて紹介されている。また、CBT 開発に関する技術について２件の特許出願並びに商標登録を行い、他の国立大学等３機関に採用される段階まで事業展開している。（中期計画 1-4-1-1）
○　多面的・総合的選抜の効率化
学力の３要素のうちの主体性等評価を目的に特色加点制度を考案・導入している。主体性等評価の課題を克服する手法を考案し、選考書類の申請から採点作業までの業務を一貫してペーパーレスで行うことができる電子書類採点システムを開発している。学生のアンケートや学業成績分析により、制度の導入がアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入に寄与していることが確認されている。また、電子書類採点システムは特許を取得し、すでに他の国立大学等７大学へ導入又は導入予定となっている。（中期計画 1-4-1-1）</td></tr>
</table>

	（特色ある点） ○　高大連携活動の拡充 　高校と大学の教育接続のための継続・育成型高大連携カリキュラム（とびらプロジェクト）を開発・実施し、入試と高大連携活動を一体的に捉えた高大接続改革モデルを実践している。当初想定されていた教育分野（教育学部）、科学分野（理工学部・農学部）、医療分野（医学部）の３分野から、社会科学分野（経済学部）、芸術分野（芸術地域デザイン学部）まで実践は拡大している。これにより、佐賀大学の全ての分野におけるカリキュラム導入を実現し、全学的な取組として展開している。（中期計画 1-4-1-2）

Ⅱ　研究に関する目標（大項目２）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標をおおむね達成している

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）２項目のうち、１項目が「中期目標を達成している」、１項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
研究水準の向上に関する目標 【08】地域に根ざしたイノベーション創出拠点として，国際的水準の基礎的・基盤的研究を推進する。	【３】	中期目標を達成している	・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	（特色ある点） ○　卓越研究者への報奨 インセンティブの充実、研究における評価の可視化、研究の活性化などの観点から、教員の研究における報奨制度としての佐賀大学エスタブリッシュド・フェロー（Established Fellow）制度を創設し、個人研究のみならず学際領域研究の組織的研究の中核的な人材として、研究分野において先駆的・先導的役割を担う者を選定している。（中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2） ○　基礎的・基盤的研究の推進 国際的水準の基礎的・基盤的研究の推進を目指して、論文数等（特に英語論文）の増加を図るため大学として研究費支援を行っている。教員数が減少する中、査読付英語論文数の		

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">着実な増加が見られるとともに、論文数の数値目標も達成可能な見込みとなっている。また、若手研究者を対象に学術室主導で研究室訪問及び理事と URA による 2 人体制の申請前査読などを実施し、採択率を高めることに成功している（全体採択率が 27.1%に対して対象者の採択率 36.4%）。（中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2）</td></tr>
<tr><td>小項目 2-1-2</td><td colspan="2">判定</td><td>判断理由</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究成果の社会への還元に関する目標
【09】大学や地域の特性を生かした研究を組織的に推進し，研究成果を積極的に発信することにより，地域社会の発展に貢献する。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　地域の歴史・文化的資料の積極的な公開
「小城鍋島文庫」を用いた小城市との共同研究・協力事業を実施し、共催展を継続して開催している。また、佐賀大学が所蔵する佐賀の歴史・文化資料「小城藩日記」のデータベース化に取り組み、その成果を公開している。この取組は優れた目録・書誌つくりの研究を顕彰するゲスナー賞のデジタルによる知の組織化部門銀賞など複数の賞を受けている。
（中期計画 2-1-2-2）</td></tr>
</table>

（２）研究実施体制等に関する目標（中項目 2-2）

【評価結果】中期目標をおおむね達成している

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、２項目が「中期目標を達成している」、１項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
研究の質の向上のためのシステムに関する目標 【10】国際的研究拠点形成を目指す研究実施体制を構築する。	【３】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。なお、４年目終了時に指摘した改善を要する点は改善されている。
	≪特記事項≫		
	該当なし		

小項目 2-2-2	判定		判断理由
重点領域研究の推進体制に関する目標 【11】強み・特色のある独創的・先端的研究体制を重点的に整備し，イノベーション創出に貢献する。	【３】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	（特色ある点） ○ 地域の発展に貢献する研究 藻類研究プロジェクトでは佐賀市産微細藻類培養株を確立し、佐賀市産イカダモの血圧低下・抗肥満活性及び創傷治癒促進効果及び、微細藻類の高速脱水条件の把握等の存在を確認している。また、農水圏プロジェクトでは、高オレイン酸大豆品種「佐大 H01 号」を品種登録申請するとともに、マメ科植物としては生育が極めて遅い甘草について着生能力が高い根粒菌系統の単離を行い、この根粒菌の接種により根粒数の増加と生育速度の改善が可能であることを確認している。（中期計画 2-2-2-1） ○ 海洋エネルギー研究センターの共同研究 海洋エネルギー研究センターは、共同利用・共同研究拠点として共同研究（異分野連携・融合分野含む）を毎年 50 件		

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">以上受け入れ、設備の共同利用を促進している。また、国際的な研究者ネットワークの中核的拠点として、次世代研究者の育成事業を開催し、若手研究者人材育成に貢献している。更に、平成30年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の採択を受け、マレーシア工科大学との共同研究を開始し、海洋温度差発電の実証研究を進めている。（中期計画2-2-2-2）</td></tr>
<tr><td>小項目2-2-3</td><td colspan="2">判定</td><td>判断理由</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究支援の充実に関する目標
【12】多様な研究者及び研究支援者の確保・育成と競争的な研究環境の醸成により，研究活動を活性化する</td><td>【２】</td><td>中期目標を十分に達成しているとはいえない</td><td>・　中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。
・　また、「研究者の多様化の推進の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（改善を要する点）
○　研究者の多様化の推進の状況
若手研究者や外国人・女性研究者を第２期中期目標期間の最終年度より10%増加させるという目標について、若手研究者では平成28年度から令和3年度にかけて-26.3%から-9.0%の間にとどまっている。外国人研究者では平成28年度から令和3年度にかけて-30.3%から-3.0%にとどまっている。女性研究者では-3.8%から+2.7%にとどまっている。したがって、３指標とも目標を達成していない。（中期計画2-2-3-1）</td></tr>
</table>

Ⅲ　社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育･研究に関する目標（大項目３）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標をおおむね達成している

（判断理由）「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

<table>
<tr><th>小項目 3-1-1</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">地域活性化の中核的拠点形成に関する目標
【13】地域に根ざした教育研究拠点として，学術活動の発展とグローバル化に寄与する。</td><td>【２】</td><td>中期目標を十分に達成しているとはいえない</td><td>・　中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。
・　また、「地元就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（特色ある点）
○　窯業に関する共同研究・受託研究の推進
「伝統技術と電磁気的効果を併用した陶磁器の革新的製造技術の開発」、「伝統の有田磁器技術に、新しい強化陶磁器技術、誘導加熱技術を融合して実現する、高耐久性と実用性を備えた高機能磁器の開発」、「やきものイノベーションによる地域共創プロジェクト」等、県窯業技術センターや地元陶磁器産業関連企業との協働・連携が６件の受託・共同研究として形になり、その一部については、知財化に向けた手続きを進めている。（中期計画 3-1-1-1）
（改善を要する点）
○　地元就職率の状況
地元就職率を平成 26 年度比 10％増加させるという目標について、平成 28 年度+2.5％、平成 29 年度-0.8％、平成 30 年度+3.6％、令和元年度+2.6％、令和２年度+2.7％、令和３年度+0.6％になっており、一定程度の取組は行われているものの、目標に及ばない。（中期計画 3-1-1-2）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>小項目 3-1-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育研究の成果を地域社会に還元する目標
【14】教育研究の成果を積極的かつ効果的に地域社会に還元する。特に，教員養成分野は，佐賀県教育委員会等との連携により，義務教育諸学校における地域の教員養成機能の中心的役割を担う。</td><td>【２】</td><td>中期目標を十分に達成しているとはいえない</td><td>・　中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。
・　また、「教員養成系学部の卒業生に占める教員就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">（優れた点）
○　地域との共同研究成果の社会還元
教育研究の成果を積極的かつ効果的に地域社会に還元するため、成果の発信、研究推進・産学連携体制の強化を図っている。具体的には、企業との共同商品開発 13 品目（フォーケア多機能いす、さがんルビーを原料としたスキンケア製品、手首とひじへの負担を軽減する授乳補助クッション等)、発明届出件数 55 件（平成 27 年度比 71.88%増)、佐賀県内企業との共同研究締結数 47 件、25,098 千円（平成 27 年度比 20 件増、18,236 千円増)、URA による外部資金獲得件数 23 件、54,611 千円となっている。(中期計画 3-1-2-1)
（改善を要する点）
●　教員養成系学部の卒業生に占める教員就職率の状況
教員養成系学部の卒業生に占める教員就職率について、第３期中期目標期間中に 80%確保するという目標に対して、平成 28 年度 67.9%、平成 29 年度 57.4%、平成 30 年度 67.4%、令和元年度 69.7%、令和２年度 75.2%、令和３年度 71.2%となっており、一定程度の取組は見られるものの、目標を達成していない。(中期計画 3-1-2-4)

※　中期計画 3-1-2-3 については、佐賀県における小学校教員の占有率において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したため、このような状況を勘案して「改善を要する点」としては指摘しない。</td></tr>
</table>

Ⅳ　その他の目標（大項目４）

１．　評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が１項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

２．　中期目標の達成状況

（１）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
教育のグローバル化に関する目標 【15】地域活性化の中核的拠点として，外国人留学生の受入れ及び学生の海外留学を促進し，グローバルな視野を持った人材を育成する。	【３】	中期目標を達成している	・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	（特色ある点） ○　SPACE-ARITA プログラムの展開 佐賀大学独自の受入れプログラム「芸術地域デザイン学部の SPACE-ARITA プログラム」（有田キャンパスにおける窯芸教育に特化した交換留学生受入れプログラム。平成 29 年度から令和元年度に計８名を受入）及び「経済学部の SPACE-ECON プログラム」（日本語による経済学・経営学・法学に関する授業の履修、セミナーへの参加などを通して社会科学と日本社会について学ぶプログラム）を運営している。SPACE-ARITA プログラムにおいては留学生がプログラムで制作した作品が世界最大級の国際見本市で受賞しており、別の留学生の作品が世界三大見本市のうちの一つで特集されるなどの効果が出ている。（中期計画 4-1-1-2）		

<table>
<tr><th>小項目 4-1-2</th><th colspan="2">判定</th><th>判断理由</th></tr>
<tr><td rowspan="3">研究のグローバル化に関する目標
【16】アジアを中心に広く海外の研究機関との連携を強化し，地域活性化の核となる国際性豊かな研究拠点としての水準を高める。</td><td>【３】</td><td>中期目標を達成している</td><td>・　中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。なお、４年目終了時に指摘した改善を要する点は改善されている。</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪特記事項≫</td></tr>
<tr><td colspan="3">該当なし</td></tr>
</table>

≪判定結果一覧表≫

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	（参考）4年目終了時評価の判定
大項目1 **教育に関する目標**	【4】	上回る成果が得られている	3.62 うち現況分析結果加算点 0.03	【4】
中項目1-1 **教育内容及び教育の成果等に関する目標**	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-1-1 学士課程教育の内容及び成果等に関する目標 【01】学士教育課程の質的転換により，豊かな教養と専門分野の学識を体系的に身につけ，複眼的思考を培い，主体的に学び行動し，地域社会などで多様に活躍できる学生を育成する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-1-1（★） 【001】地域社会などで多様に活躍する学生を育成するために，教養教育科目の全ての「インターフェースプログラム」で地域との関連を学ぶ地域志向教育を取り入れる。また，地域志向など複眼的思考を培う「副専攻教育プログラム」を編成・実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-1-2 【002】学生の能動的な学びを生み出すために，全授業科目に反転授業やアクティブ・ラーニングによる教育手法等を導入・実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-1-3（★） 【003】学生の主体的な学修を促進するために，学修成果の可視化を進め，学生自らが自己の学修成果をラーニング・ポートフォリオによって証明して卒業認定を申請する制度を全学部に創設し，運用する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-1-2 大学院課程教育の内容及び成果等に関する目標 【02】学部・大学院統合型や分野融合型の教育プログラムを編成し，幅広く深い学識を涵養するとともに，教育研究指導を充実して，高度専門職業人を育成する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-2-1 【004】高度専門職業人を育成するために，学部3年次から大学院修士課程（博士前期課程）に連続した4年一貫教育プログラム等を編成・実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-2-2（★） 【005】大学院における汎用的知識・技能習得のために，分野融合型の大学院教養教育プログラムを全研究科で実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-2-3（★） 【006】教育研究の学修時間を保証するために，教育研究を研究科目として単位化するとともに，教育研究指導を充実させ，全研究科で複数教員による教育研究指導体制を確立し，教育研究のルーブリックによる学修評価を導入する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-2 **教育の実施体制等に関する目標**	【3】	達成している	3.33	【3】
小項目1-2-1 教職員の配置に関する目標 【03】教員組織の見直しにより，学士課程・大学院課程の教育目的に即した組織的な教学マネジメント体制を構築する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-2-1-1 【007】教育の質的転換を推進するために，教育組織への柔軟な教員配置を可能とする教員組織の見直しに基づき，新たに学士課程・大学院課程教育プログラムを企画・管理する組織的な教学マネジメント体制を構築する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	（参考）4年目終了時評価の判定
小項目1-2-2 教育環境の整備に関する目標 【04】目的を持って主体的に学び行動する学生中心の大学づくりの観点から，教育環境を充実させる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-2-1 【008】教育の質的転換を推進するために，アクティブ・ラーニング教室並びに学生及び教員の自発的な学修，研修を実施するラーニング・コモンズやティーチング・コモンズ施設を全学的に整備し，活用する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-2-2（★） 【009】ラーニング・ポートフォリオに教育成果の可視化機能を付与し，学生の主体的な学びへの転換を図る仕組みを全学部に構築し，実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-2-3 【010】クリエイティブ・ラーニングセンターは，教育方法や評価方法等の開発の拠点として，ICTを活用した教育支援を充実させるため，反転授業，アクティブ・ラーニング，ネット授業等の手法開発や教材作成等を行うとともに，教員のICT活用指導力向上のための研修を実施する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-2-3 教育の質の改善のためのシステムに関する目標 【05】組織的教学マネジメント体制を強化し，主体的に学び行動する学生を育成するための教育の質的転換を実質化する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画1-2-3-1 【011】全学部・研究科にコースナンバリングを導入し，全学的見地から教育課程の体系性と水準を点検・整備する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-3-2 【012】教員の教育力向上のために，簡易版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率100％を維持し，それを利用した教育改善のFD活動を活発化させるとともに，標準版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率を全授業担当教員数の15％以上とする。また，新規採用の教員における教育業績評価に活用する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-3-3 【013】学修成果の向上を図るために，クォーター制などの学期制に柔軟に対応可能な，週複数回授業を可能にする時間割を全学部・研究科で編成・実施する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-3 **学生への支援に関する目標**	**【4】**	上回る成果が得られている	4.00	**【4】**
小項目1-3-1 学生への支援に関する目標 【06】学修支援・生活支援・就職支援機能を充実するとともに，特別な支援を必要とする学生への取組を強化する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画1-3-1-1（★） 【014】チューター制度によりラーニング・ポートフォリオを活用した個別修学指導など，きめ細かな学修支援を行い，ラーニング・ポートフォリオの卒業時入力率を100％とする。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2（★） 【015】ポートフォリオ学習支援統合システムに学生からの要望を集約する機能を新たに付与し，学期毎に全学的に要望を取りまとめ，これに基づき，学生生活，課外活動，社会活動等に対し支援を行う。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-3 【016】特別な支援を必要とする学生に対し，個別支援計画ファイルを開発・活用して個々に応じた支援を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【2】

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	（参考）4年目終了時評価の判定
中期計画1-3-1-4 【017】キャリアガイダンスを充実させるとともに，正課外における就職活動支援策を強化し，第3期中期目標期間の平均就職率を第2期中期目標期間よりも向上させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中項目1-4 **入学者選抜に関する目標**	**【4】**	上回る成果が得られている	4.00	**【4】**
小項目1-4-1 入学者選抜に関する目標 【07】アドミッション・ポリシーに基づき，「確かな学力」を多面的・総合的に評価・判定する方法を導入し，全学的な入試改革を実現する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-4-1-1（★）（◆） 【018】従来の試験方法では測れない能力や適性等を評価する「佐賀大学版CBT」の開発や志願者の活動・実績等をアドミッション・ポリシーに応じて評価する「特色加点」制度の構築など，多面的・総合的に評価する新しい評価・判定方法を全学部に導入する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-4-1-2（★）（◆） 【019】高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図るため，高校生が3年間を通じて高度な教育や研究に触れ，将来の進路を考えることを目的とした「継続・育成型高大連携カリキュラム」を3つ以上実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【2】
大項目2 **研究に関する目標**	**【2】**	おおむね達成している	2.92 うち現況分析結果加算点 0.09	**【2】**
中項目2-1 **研究水準及び研究の成果等に関する目標**	**【3】**	達成している	3.00	**【3】**
小項目2-1-1 研究水準の向上に関する目標 【08】地域に根ざしたイノベーション創出拠点として，国際的水準の基礎的・基盤的研究を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-1-1-1（★） 【020】研究成果として，論文数及び学会発表数を第2期中期目標期間の総数より10％増加させるために，学長裁量による評価反映特別経費などのインセンティブを付与し，全学部・研究科において研究支援等の取組を行う。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-2（★） 【021】科学研究費助成事業の申請率を90％以上，また新規採択率を20％以上にするために，申請書作成支援等の取組を行う。	【2】	実施している		【2】
小項目2-1-2 研究成果の社会への還元に関する目標 【09】大学や地域の特性を生かした研究を組織的に推進し，研究成果を積極的に発信することにより，地域社会の発展に貢献する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-1-2-1（★） 【022】環境・防災，エネルギー，食料，感染症等の地球規模の課題解決に資する研究を推進し，研究成果を広報するプレスリリース数を第2期中期目標期間の最終年度より10％増加させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-2-2（★） 【023】佐賀の歴史・文化に関する研究資料や芸術・デザイン分野を始めとする本学の研究成果を発信するために，佐賀大学美術館，附属図書館等を活用した成果発表イベントの開催数を第2期中期目標期間の最終年度より10％増加させる。	【2】	実施している		【2】

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	（参考）4年目終了時評価の判定
中項目2-2 **研究実施体制等に関する目標**	【2】	おおむね達成している	2.67	【2】
小項目2-2-1 研究の質の向上のためのシステムに関する目標 【10】国際的研究拠点形成を目指す研究実施体制を構築する。	【3】	達成している	2.00	【2】
中期計画2-2-1-1 【024】国際的な頭脳循環を促進するために，海外の研究機関との共同研究を第2期中期目標期間の最終年度より10％増加させる。	【2】	実施している		【1】
中期計画2-2-1-2（★） 【025】佐賀大学版プロジェクト研究所等の異分野融合領域の研究組織を戦略的に整備し，萌芽的研究については，研究費等の重点的支援を行う。	【2】	実施している		【2】
小項目2-2-2 重点領域研究の推進体制に関する目標 【11】強み・特色のある独創的・先端的研究体制を重点的に整備し，イノベーション創出に貢献する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-2-2-1（★） 【026】有明海，佐賀学，エネルギー，シンクロトロン，地域医療研究とともに，芸術･デザイン，バイオ･健康等の新たな領域の研究体制を整備する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-2-2 【027】海洋エネルギー研究センターは，国内外に開かれた共同利用・共同研究拠点として，設備の共同利用の一層の促進や異分野連携・融合に取り組むとともに，国際的な研究者ネットワークの中核的拠点として次世代研究者を育成する。	【2】	実施している		【2】
小項目2-2-3 研究支援の充実に関する目標 【12】多様な研究者及び研究支援者の確保・育成と競争的な研究環境の醸成により，研究活動を活性化する	【2】	十分に達成しているとはいえない	1.67	【2】
中期計画2-2-3-1 【028】若手研究者や外国人･女性研究者を第2期中期目標期間の最終年度より10％増加させるために，人事・給与制度改革や子育て・介護等に適応した多様なワークスタイルの実現に向けた研究環境の整備を行う。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
中期計画2-2-3-2（★） 【029】リサーチ・アドミニストレーター（URA）等の研究マネジメント人材や豊富な国際交流経験と外国語能力を有する国際担当職員（国際コーディネーター）等の研究支援者を計画的に確保し，人材育成（研修）計画を策定し組織的に育成する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-3-3 【030】佐賀大学版IRを活用した研究マネジメント体制に基づく，研究基盤（人材・設備・資金・研究時間・スペース・情報基盤等）の整備を戦略的に推進する。	【2】	実施している		【2】

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	（参考）4年目終了時評価の判定
大項目3 **社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標**	【2】	おおむね達成している	2.00	【2】
	なし	－	—	なし
小項目3-1-1 地域活性化の中核的拠点形成に関する目標 【13】地域に根ざした教育研究拠点として，学術活動の発展とグローバル化に寄与する。	【2】	十分に達成しているとはいえない	2.00	【2】
中期計画3-1-1-1（★）（◆） 【031】本学と佐賀県立有田窯業大学校を統合し，新たに4年制課程として芸術地域デザイン学部を設置するとともに，地域活性化と国際化に対応する人材を育成するために，窯業の地域文化を基盤としたセラミック産業での国際的学術拠点を自治体等との協働により現有田窯業大学校に整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-2 【032】学長をトップとした地域に根ざした教育研究拠点推進体制を構築し，地域企業や自治体，他大学との教育・研究連携を強化して，地元就職率を平成26年度比10％増加させるために，地域志向科目の全学部必修化やインターンシップの充実並びに公開講座及び社会人学び直しに関連する講座などの生涯学習拡充を含む地域志向型の教育改革を実行する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
小項目3-1-2 教育研究の成果を地域社会に還元する目標 【14】教育研究の成果を積極的かつ効果的に地域社会に還元する。特に，教員養成分野は，佐賀県教育委員会等との連携により，義務教育諸学校における地域の教員養成機能の中心的役割を担う。	【2】	十分に達成しているとはいえない	1.80	【3】
中期計画3-1-2-1（★） 【033】地域志向型の教育研究実践の成果を発信し，地域産業の振興，イノベーション創出や地域活性化に活用する。なお，知的財産に関する周知や受託研究・共同研究の締結数の増加を図ることにより，発明届出件数を10％増加させるとともに，共同開発商品については，毎年度1品目を開発する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-2-2 【034】教員養成系学部の実践型教員養成への質的転換を図り，小中学校等での指導経験のある教員の割合を40％に引き上げるために，原則，新規採用の教員応募条件に小・中学校等での教職経験を求め，学校現場で指導経験のない教員には附属学校等を活用した実践的指導力向上のための研修を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-2-3 【035】教員養成系学部の卒業生の佐賀県における小学校教員の占有率を第3期中期目標期間中に50％確保するために，現在，佐賀県教育委員会と連携して実施している佐賀県地域枠，高大連携プログラムの拡充を行うとともに，教員就職支援を強化する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
中期計画3-1-2-4 【036】教員養成系学部の卒業生に占める教員就職率を第3期中期目標期間中に80％確保するために，教員養成に特化した組織を設置するとともに，アドミッション・ポリシーの明確化と広報活動の徹底，教員就職支援を強化する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【2】
中期計画3-1-2-5 【037】教職大学院の修了者に占める教員就職率を90％を確保するために，実践的な教員養成カリキュラムの高度化を図るとともに，佐賀県教育委員会と連携して実施している推薦制度や特別猶予制度を活用する。	【2】	実施している		【2】

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目） 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	（参考）4年目終了時評価の判定
大項目4 **その他の目標**	【3】	達成している	3.00	【2】
中項目4-1 **グローバル化に関する目標**	【3】	達成している	3.00	【2】
小項目4-1-1 教育のグローバル化に関する目標 【15】地域活性化の中核的拠点として，外国人留学生の受入れ及び学生の海外留学を促進し，グローバルな視野を持った人材を育成する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画4-1-1-1 【038】重点分野・地域に特化した戦略的なパートナーシップを構築するために，海外版ホームカミングデーの開催やオンラインネットワークの構築などにより，卒業生等の帰国留学生ネットワークを整備するとともに，ジョイント・プログラムの更なる開発・改良などにより，アジアを中心とした協定校との連携プログラムを強化する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-2 【039】第2期中期目標期間の平均より交換留学生の受入れ人数を20%，短期留学生の受入人数を30%増加させるために，佐賀大学独自の魅力ある受入れプログラムを構築するとともに，外国人留学生のための経済支援，住環境整備や就職支援などの受入環境を充実させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画4-1-1-3（★）（＊） 【040】海外留学派遣者数を30%増加させ活発化させるために，学内外の各種支援制度の利用を推進するとともに，国際交流推進センターを中心としたサポート体制を充実させる。	【2】	実施している		【2】
小項目4-1-2 研究のグローバル化に関する目標 【16】アジアを中心に広く海外の研究機関との連携を強化し，地域活性化の核となる国際性豊かな研究拠点としての水準を高める。	【3】	達成している	2.00	【2】
中期計画4-1-2-1 【041】研究者交流を第2期中期目標期間の平均より30%増加させるために，アジアを中心とした海外協定校や研究機関とのパートナーシップを構築するとともに，研究者の交流支援体制を強化する。	【2】	実施している		【1】
中期計画4-1-2-2 【042】国際性豊かな人材の育成と国際レベルのイノベーション創出のために，海外研究機関との共同プロジェクト（東アジア経済に関する国際研究，日中韓及びASEAN工学系高度人材育成，日仏化粧品産業クラスター，日韓農業版MOT人材育成，国際低平地研究，海洋エネルギー研究等）を年1回以上実施する。	【2】	実施している		【2】

※　中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
（★）:「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画（「法人の特徴」参照）
（◆）:文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
（＊）:新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※　「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】　達成状況評価　　現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{大項目「教育に関する目標」}\\\text{の中項目の平均値}\end{array}\right) + \left\{\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{（Ⅰ 教育活動の状況）、}\\\text{（Ⅱ 教育成果の状況）}\\\text{の全判定結果の平均値}\end{array}\right) - 2^{注1}\right\} \times \text{係数 } 0.5^{注2}$$

【研究】　達成状況評価　　現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{大項目「研究に関する目標」}\\\text{の中項目の平均値}\end{array}\right) + \left\{\left(\begin{array}{l}\text{当該法人における}\\\text{（Ⅰ 研究活動の状況）、}\\\text{（Ⅱ 研究成果の状況）}\\\text{の全判定結果の平均値}\end{array}\right) - 2^{注1}\right\} \times \text{係数 } 0.5^{注2}$$

注1　現況分析は4段階判定となっており、【2】判定（相応の質にある）が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。
注2　現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。